



MUSEUM MEISTER
— HOKKAIDO UNIVERSITY —

www.museum.hokudai.ac.jp

GUIDEBOOK

The Hokkaido University Museum

**MUSEUM
MEISTER**

北海道大学総合博物館

ミュージアムマイスター

認定コースのご案内

2017年度



INDEX

- 01 社会はミュージアムマイスターを待っている!
- 02 ミュージアムマイスター認定コースの概要
- 03 開講科目一覧
- 04 開講科目の紹介
- 06 特集
「マイスターに聞いてみよう!」
- 08 登録申し込みについて

社会は ミュージアム マイスターを 待っている!

皆さんは、大学では専門分野について深く学ぶことが大切だと思っているでしょう。そのこと自体は間違っていないが、北海道大学のような総合大学では、学科や学部の垣根を超えて、広い分野を学ぶことができます。そのような恵まれた環境にいることを、最大限に活用しましょう。総合博物館では「博物館を舞台とした体験型教育」課程を設定し、広い分野の知識を講義や実習で習得するだけでなく、博物館が主宰する課外演習や活動を通じて実践的に学ぶコースを作りました。このコースでは一定水準をクリアした学生は「ミュージアムマイスター」として認定されます。しかし、平成21年度から始まったこのプログラムでは、マイスターはまだ27名しか誕生していません。いかに選りすぐられた人材に与えられる称号であるか、わかると思います。このコースで我々が重視するのは、知識だけではなく、現代社会において必要とされる「社会貢献のための高い見識と情熱」、「人間社会の持続的発展のために貢献できる知恵」を持つ人材の育成なのです。これは、北大の教育理念である「全人教育」の完成形であるといえるでしょう。皆さんもマイスターを目指して、充実した学生生活を過ごしてみませんか。

2017年4月

北海道大学総合博物館長
中川 光弘



ミュージアムマイスター 認定コースの概要

「ミュージアムマイスター認定コース」とは、課題探究能力、協調性と自主性を備え、問題解決能力、コミュニケーション能力、マネジメント能力を持ち、自己評価の視点を身に付けた北大生を認定する教育システムです。シラバスの中から、北大総合博物館が認定した科目を履修し、さらに、博物館が主催するプロジェクトや講座に参加して、必要なクレジット数を取得し、一定基準の成績を修め、プレゼンテーションを含む面談をクリアした学生を、北大総合博物館長が「ミュージアムマイスター」として認定します。

●受講方法

下記の通り科目種別(A～D)の手続きに従って、受講申請を行ってください。大学院生が学芸員養成課程関連科目以外のABの科目を聴講希望する場合は、まず、ミュージアムマイスター事務局にお問い合わせください。

A 全学教育科目 (総合科目、一般教育演習、主題別科目)

高等教育推進機構・教務課に、指定の期日までに履修届を提出してください。

B 学部専門科目

他学部学生が履修する場合は、担当教員にミュージアムマイスター認定コースの一環として参加する旨をご連絡ください。(履修は所定の申請を行えば認められますが、卒業認定に関わるかは学部によって異なります。マイスターコースのクレジットは取得することができます。)

C 大学院専門科目・大学院共通授業科目

学部学生も3年生以上は履修可能です。その場合は、担当教員にミュージアムマイスター認定コースの一環として参加する希望を伝え、了承を得て、ミュージアムマイスター事務局にご連絡ください。(マイスターコースのクレジットは取得できますが、学部学生は単位を取得できないため、履修届を提出する必要はありません。)

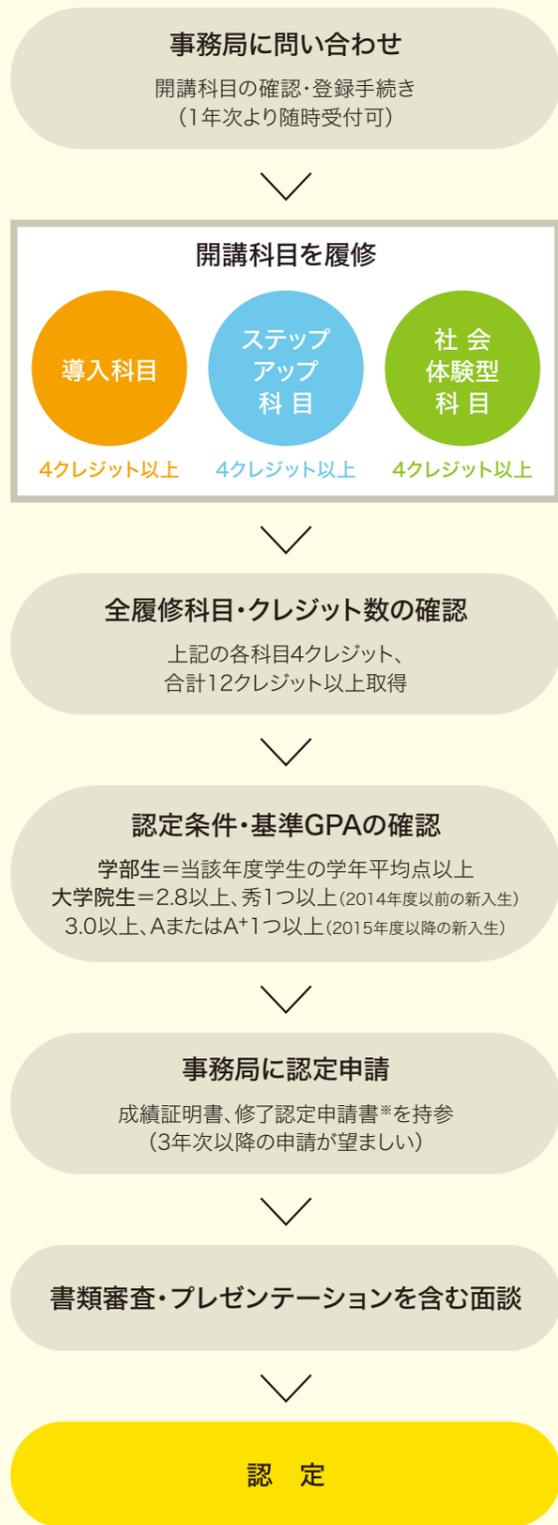
D オフカリキュラム・プログラム

通常の授業枠を超えて博物館が独自に開講するプログラムです。内容は、企画展の展示解説やセミナー運営など様々です。受講生は自分の空き時間を利用してプログラムに参加します。博物館独自のプログラムのため、関連情報はシラバスには掲載されていません。卒業認定に関わる単位は取得できませんが、マイスターコースのクレジットは取得できます。受講生募集は、博物館ウェブサイトや構内ポスターで前期・後期に各1回行います。今後の予定などはミュージアムマイスター事務局までお問い合わせください。

◎クレジットについて

クレジットはミュージアムマイスター認定コース独自のものです。大学院授業やオフカリキュラムのプロジェクトで認定されるクレジットは、卒業認定に関わる単位とは異なります。また「ミュージアムマイスター認定コース」で必要な科目と「学芸員資格取得」に必要な単位は異なります。

●認定までの流れ



* 修了認定申請書は「ミュージアムマイスター 修了認定申請書」で検索、もしくはミュージアムマイスター事務局までお越しください。

開講科目一覧

●下記の科目情報は平成28年3月1日現在のものです。変更になる場合もありますので、開講学期・曜日・時間についてはシラバスや各掲示板も必ず確認してください。

科目種別	授業名	開講時期	曜日(時限)	責任教員	クレジット数
A 全学教育科目(総合科目)	[環境と人間] 生物の多様性	1	水曜(5)	柁原 宏	2
A 全学教育科目(総合科目)	[環境と人間] フィールド科学への招待	1	金曜(5)	四ツ倉 典滋	2
A 全学教育科目(総合科目)	[人間と文化] アイヌ・先住民研究の現在	2	木曜(5)	山崎 幸治	2
A 全学教育科目(総合科目)	[環境と人間] 「モノ」+「コト」+「ヒト」=北大総合博物館	1	木曜(5)	江田 真毅	2
A 全学教育科目(一般教育演習)	北大エコキャンパスの自然 — 植物学入門	1	木曜(5)	高橋 英樹	2
A 全学教育科目(一般教育演習)	北大エコキャンパスの自然と歴史	1	金曜(5)	高橋 英樹	2
B 文学部専門科目	博物館概論	1	水曜(1)	佐々木 亨	2
B 文学部専門科目	博物館教育論	1	木曜(1)	湯浅 万紀子	2
B 文学部専門科目	博物館資料論	1	金曜(5)	佐々木 亨	2
B 文学部専門科目	博物館経営論	2	火曜(5)	佐々木 亨	2
B 文学部専門科目	博物館情報・メディア論	1	水曜(5)	山下 俊介	2
B 文学部専門科目	博物館展示論	2	金曜(5)	山崎 幸治	2
B 文学部専門科目	博物館資料保存論	1	火曜(5)	鈴木 幸人	2
A 全学教育科目(総合科目)	[環境と人間] ヒグマ学入門	2	水曜(5)	増田 隆一	2
A 全学教育科目(一般教育演習)	フィールド体験型プログラム —人間と環境科学—[1]	1	集中	山田 敏彦	2
A 全学教育科目(一般教育演習)	フィールド体験型プログラム —人間と環境科学—[2]	2	集中	山田 敏彦	2
A 全学教育科目(一般教育演習)	アイヌの歴史と文化を歩く	1	集中	加藤 博文	2
A 全学教育科目(一般教育演習)	International Archaeological Field School in Rebus Island	1	集中	加藤 博文	2
A 全学教育科目(一般教育演習)	「蛙(あ)学への招待:最終章」—両棲綱無尾目の内部形態への誘い—	1	火曜(5)	鈴木 誠	2
A 全学教育科目(主題別科目)	[芸術と文学] 学芸員に求められる力	1	月曜(5)	岩崎 直人	2
A 全学教育科目(主題別科目)	[芸術と文学] PMFの響き	1	木曜(5)	三浦 洋	2
A 全学教育科目(主題別科目)	[芸術と文学] 美術館という現場	1	水曜(2)	北村 清彦	2
A 全学教育科目(主題別科目)	[歴史の視座] ヒトとは何か:人類史入門(導入編)	秋	月曜(5)	加藤 博文	1
A 全学教育科目(主題別科目)	[歴史の視座] ヒトとは何か:人類史入門(発展編)	冬	月曜(5)	加藤 博文	1
B 文学部専門科目	北方人類学演習:フィールドワーク実践 [17]	1	火曜(3)	佐々木 亨	2
B 水産学部専門科目	水圏生物学	春	火曜(3~4)	今村 央	2
B 水産学部専門科目	魚類学	春	月曜(1) 水曜(2)	矢部 衛	2
B 水産学部専門科目	魚病学	夏	火曜(1) 金曜(3)	笠井 久会	2
B 水産学部専門科目	水族館学	春	木曜(3~4)	河合 俊郎	2
C 文学研究科専門科目	北方文化論特殊講義:ミュージアムのマネージメント [17]	2	火曜(3)	佐々木 亨	2
C 大学院共通授業科目	博物館学特別講義 I: 学術標本・資料学	秋・冬	金曜(5)	高橋 英樹	2
D 総合博物館・オフカリキュラム	バラタクソノミスト養成講座	—	随時*	—	0.5~1
C 理学院専門科目	博物館コミュニケーション特論(学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価)	1	木曜(4)	湯浅 万紀子	2
C 大学院共通授業科目	博物館コミュニケーション特論 I 学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価	春・夏	木曜(4)	湯浅 万紀子	2
C 理学院専門科目	博物館コミュニケーション特論(博物館における映像表現)	1	集中	藤田 良治	2
C 大学院共通授業科目	博物館コミュニケーション特論 II 映像表現 夏の陣	夏	集中	藤田 良治	2
C 理学院専門科目	博物館コミュニケーション特論(ミュージアムグッズの開発と評価)	2	水曜(4)	湯浅 万紀子	2
C 大学院共通授業科目	博物館コミュニケーション特論 III ミュージアムグッズの開発と評価	秋・冬	水曜(4)	湯浅 万紀子	2
C 理学院専門科目	博物館コミュニケーション特論(映像制作とスノーボード)	2	集中	藤田 良治	2
C 大学院共通授業科目	博物館コミュニケーション特論 IV 映像表現 冬の陣	冬	集中	藤田 良治	2
C 理学院専門科目	理科教育課程マネジメント特論	2	金曜(4)	山田 邦雅	2
D 総合博物館・オフカリキュラム	学生参加プロジェクト(展示制作、展示解説など)	—	随時*	湯浅 万紀子	1~2
D 総合博物館・オフカリキュラム	卒論ポスター発表会	—	1月中旬~ 3月上旬	湯浅 万紀子	2

* 受講者募集の案内は、北大総合博物館ウェブサイトに掲載されます

導入科目

環境・人間・文化に関する基礎知識を学習する科目や導入的なフィールド体験型科目。博物館の存在意義や活動についての基礎知識を学習する科目。



全学教育科目(総合科目)

- ・[環境と人間] 生物の多様性
- ・[環境と人間] フィールド科学への招待
- ・[人間と文化] アイヌ・先住民研究の現在
- ・[環境と人間] 「モノ」+「コト」+「ヒト」=北大総合博物館

全学教育科目(一般教育演習)

- ・北大エコキャンパスの自然—植物学入門
- ・北大エコキャンパスの自然と歴史

文学部専門科目

- ・博物館概論
- ・博物館教育論
- ・博物館資料論
- ・博物館経営論
- ・博物館情報・メディア論
- ・博物館展示論
- ・博物館資料保存論

ステップアップ科目

実物資料の扱い方やフィールドワークの方法を学習する科目や講座。博物館の活動と運営について理解を深める科目。



授業紹介

●水族館学

水族館をめぐる学問分野は非常に広範囲にわたっています。水産学、動物学、水質化学などの自然科学と、博物館学、経営学、教育学などの人文科学を総合的に理解することで、水族館とは何かということを学習します。また、水族館で実際に行っている研究活動や日常の仕事について、水族館の職員になるための過程についても紹介します。

本講義は、実際に水族館で活躍している方々が講義をします。今年度は鴨川シーワールド総支配人の荒井一利氏、大阪海遊館館長の西田清徳氏、沖縄美ら島財団動物研究室室長の佐藤圭一氏、おたる水族館海獣飼育課係長の三宅教平氏を予定しています。

水族館職員を目指す学生にとっては、水族館の職員と接する機会ができるまたないチャンスです。



●博物館学特別講義Ⅰ：学術標本・資料学

「博物館学特別講義Ⅰ」では各専門分野における標本・資料の意味、取り扱い方を理解します。具体的には、標本・資料の採取・収集法、保管法、利・活用の技法、データ整理・公開法などについての知識や考え方を習得します。各分野の教員が交替りで講義をするオムニバス形式の授業で、自然史系として1)哺乳類・鳥類、2)魚類、3)昆虫、4)陸上植物、5)海藻、6)古生物、7)岩石・鉱物、8)昆虫データベース、9)分子系統進化。文化史系として10)民族学、11)言語学、12)縄文・アイヌ文化考古学、13)動物考古学、14)映像・科学技術史資料を取り扱います。

学芸員資格のアドバンスコースとして位置付けていますが、同時に自然史・文化史を対象とした各研究分野への理解を深め、文理を融合した広い視野を持った教養人としての資質も身につけます。



社会体験型科目

博物館の展示や場を活用したプロジェクトの企画・運営・評価に参加したり、学生の研究成果を市民に向けて発信して意見交換したりするなど、学生が博物館での活動を通じて社会とつながる実践と評価を行う科目やプロジェクト。



理学院専門科目

- ・博物館コミュニケーション特論 (学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価)
- ・博物館コミュニケーション特論 (博物館における映像表現)
- ・博物館コミュニケーション特論 (ミュージアムグッズの開発と評価)
- ・博物館コミュニケーション特論 (映像制作とスノーボード)
- ・理科教育課程マネジメント特論

大学院共通授業科目

- ・博物館コミュニケーション特論Ⅰ 学生発案型プロジェクトの企画・実施・評価
- ・博物館コミュニケーション特論Ⅱ 映像表現 夏の陣
- ・博物館コミュニケーション特論Ⅲ ミュージアムグッズの開発と評価
- ・博物館コミュニケーション特論Ⅳ 映像表現 冬の陣

総合博物館・オフカリキュラム

- ・学生参加プロジェクト (展示制作、展示解説など)
- ・卒論ポスター発表会

授業紹介

●卒論ポスター発表会

北海道大学を卒業するさまざまな学部 of 学生が、4年間の研究の成果について大きな1枚のポスターにまとめて発表します。学会での発表とは異なり、市民や他分野の学生にも理解できるようなポスターを制作し、わかりやすく説明することが求められます。中間発表会を複数回行い、教員の指導を受け、発表会に臨みます。



参加者の声

◎発表会は、ポスターを制作できること、他の参加者の研究を知ることができること、自分の研究を多くの方に知ってもらえることが魅力だと思います。事前の中間発表会では、多くのアドバイスを受けてポスター制作で大切な点分かり、最終的に掲載する情報を明確にすることができました。

◎卒論の内容をポスター1枚で発表するために論文の要点や主張を整理する作業は、卒論をそのまま読み返すのとは違う形で論文を見直すこととなり、自身の論文の主張やオリジナリティの問題を改めて認識できました。

◎ポスター1枚で研究成果を伝えるには、難解な事象の説明や、前提知識を視覚的に分かりやすく映るレイアウトを熟考し、相手の反応を見ながらできる限り簡潔で明快な言葉で説明するように心がけるなど、自分の研究を他分野の方に知っていただくことの面白さを学びました。

◎人に何かを伝えたい時、最初の段階で興味を持ってもらうことが大切であると強く感じました。相手を話に引き込むコミュニケーション能力が自分にとって一番の課題となりましたが、自分が取り組んだ研究の話を通して、様々な方と話ができただけでとても楽しく、貴重な時間でした。

●学生参加プロジェクト

市民に向けた大学博物館関連プロジェクトの企画・制作・運営・評価などに参加します。学生だけではなく、博物館教職員やボランティアと協働することで、コミュニケーション能力やマネジメント能力を養うことを目的としています。授業や普段の学生生活では味わうことのできない、貴重な社会体験の場です。

過去のプロジェクト：企画展示解説／卒論ポスター発表会の運営 他多数



受講者の声

「ランの王国」展示解説

◎プロジェクトを通して、展示解説員は一方向的に知識を伝えるだけでなく、来館者から語られることを受け止める「聞き手」としての役割も重要であると感じました。来館者と一緒に共感したり考えたりする役割を解説員が担うことで、博物館に双方向的な対話の機会を作ることができ、人々の展示への理解や関心を深めるだけでなく、博物館を訪れる体験がより意義深いものになると感じました。

卒論ポスター発表会の運営

◎発表会では、会を滞りなく進めるために運営スタッフが自発的に動くことの重要性を痛感しました。「専門性が高く難しい」と感じている来場者を、興味を持っていただけそうな発表者のもとへ誘導するには、広報を担当するだけでなく中間発表会に参加して発表内容を把握していたからこそできることであり、運営スタッフが来場者を迎える姿勢のひとつであるように思いました。

message

現在の仕事

現在、私は気象庁に勤めています。いま働いている部署は、火山周辺の居住者や観光客をはじめとする方々へ火山防災情報を発信するために、24時間体制で火山を監視すること、現地で火山の状況を把握することがおこなった仕事です。24時間体制での監視は、気象庁などが火山周辺に設置した地震計や監視カメラなどで行っており、現地での調査は1年間に1〜2度、熱の状態などを観測しています。気象庁が発信する情報は、火山に関わらず、速やかな防災対応をとってもらうためのトリガーとなります。こうした点で、限られた時間内的に的確かつわかりやすい情報伝達が重要と感じています。マイスターコースで取り組んだ展示解説では、様々な方に理解してもらえるコミュニケーションを来館者のペースに合わせて行う必要があります。自分が持つ情報のうち押さえるべきことを抽出して、相手に伝えていました。こうした経験が生かされていくのではと思っています。

博物館での活動の思い出

私がマイスターコースで最初に行ったのは、展示解説でした。展示解説は北大総合博物館の展示物から自ら選んだものを来館者に説明しました。この活動では、理解が十分でないと言葉を噛み砕きすぎずに説明がわかりにくくなる、といったことに初めて気づくことができました。また、自分自身が対象・事象に関心がなければ来館者を魅きつけるような解説ができない、ということもわかり、とても面白い経験でした。また、展示制作では、制作者の意図を伝えられる展示の設置方法・効果的な解説パネルはどのようなものか、多数の展示物の中から注目してもらうために工夫できることはないか、などをよく考える必要があることを知りました。

在校生へのメッセージ

興味を抱いたイベント・展示があれば、まず北大総合博物館に足を運んでください。好奇心を持ち、モノを見たり、触れたりすることが、知識を得ると同じくらいに博物館の活動では大切なことだと思っています。私は北大総合博物館でのマイスターコースをきっかけに、新たな興味を刺激されたり、自分はこれが好きなのかということを確認したり、様々な方との出会いもありました。みなさんにとっても、マイスターコースは新たな扉を開くきっかけになるかもしれません。



三嶋 渉

気象庁 札幌管区气象台 気象防災部
地域火山監視・警報センター
理学部3年次にマイスターに認定

message

私は2015年度に北大理学院に進学すると同時に休学し、むかわ町役場穂別総合支所に2016年度まで勤務しました。むかわ町穂別地区は化石の産出地として知られ、最近では国内屈指の恐竜全身骨格と目される「むかわ竜」が注目されています。このむかわ竜をまちの活性化に繋げるにあたって、恐竜について町内外の人に広く知ってもらうことが私の業務です。マイスターコースで身につけた「伝える力」は、私の仕事の大きな支えとなりました。例えば、小学生を対象に「恐竜・化石教室」を企画した際には、実物の化石を穂別博物館から借用し、本やネットでは得られない博物館ならではの「ホンモノとの出会い」を再現し、子供たちの関心を引き出しました。子供たちに語りかけるときも、マイスターコースの展示解説プロジェクトや卒論ポスター発表会で培った人前での話し方・立ち振る舞いや、相手の興味を掘り起こす話題選びの感覚が役立ちました。いかに自分の伝えたいことを話すかではなく、相手はどんなことに興味をもつのか、どうしたら相手に受け止めてもらえるのかを考えるようになったのはマイスターコースでの経験があってこそだと思います。2017年度からは復学しますが、今後は仕事を通して学んだことを大学生生活に活かしていきたいです。このリーフレットを読んでいるあなたも、マイスターコースに挑戦してみませんか。ここでしか得られないもの、出会えない人や事があなたを待っています。

太田 晶

理学院修士課程1年
理学院修士1年次にマイスターに認定

message

私は学部4年のときに「博物館教育論」でマイスターコースの存在を知り、受講を決めました。全ての人に開かれた学びの場である博物館に関心を持っていたことが理由です。マイスターコースの受講を通して、分野を問わずに様々な科目を学ぶことができ、自分の凝り固まっていた視野がどんどん広がっていくのを感じました。特に、社会体験型科目はどれも非常に刺激的でした。「土曜市民セミナーの運営」では、科学者と市民の方々の対話の場を創造することの意義を学ぶことができました。そして「卒論ポスター発表会」では、自分の研究をより多くの方に知ってもらい喜びとともに、その難しさを痛感しました。この発表会がきっかけで、科学を分かりやすく人に伝えられるようになりたいと思い、大学院に進学後は専門分野と並行して科学技術コミュニケーションについて学んでいます。マイスター認定後、「ミュージアムマイスターって何なの?」とよく周囲の人に聞かれるようになりました。総合博物館について何でも知っているような人でしょうか?確かに、マイスターコースを通して今まで知り得なかった博物館の姿を多く学ぶことができました。しかし、私が思うに「ミュージアムマイスター」とは、さまざまな分野の「知」が展示されている総合博物館を舞台にして、自分の夢の実現のために活躍できる人を指すと考えています。私の夢は、自然科学の面白さを一人でも多くの人に知ってもらうことです。

日下 葵

理学院修士課程2年
理学部4年次にマイスターに認定

